

昭和57年  
1982

11月

横浜市関係

1—市、五十八年度大卒職員採用試験合格者発表。四一九人と昨年比四五%増。  
 ▽あざみ野駅前有料駐輪場オープン  
 10—「山下公園眺望訴訟」、横浜地裁で和解成立。▽市の中華街来街者アンケート調査によると、「初めて」二四%、「市外から」五三%などの結果判明  
 11—市、自衛隊員募集事務を九年ぶりに再開。▽市、八億九、二〇〇万円の減額補正予算案など市会定例会の案件発表  
 12—伊勢佐木町三・四丁目ショッピングモール完成式。▽横浜駅西口、横浜岡田屋（モアーズ）改装開店。▽金沢八景大橋渡り初め式。一一〇m  
 13—緑区の「三保市民の森」、面積を縮小して四カ月ぶりに再開  
 15—市技能者技術交流団、上海市訪問（〜21）。▽大黒ふ頭Ⅱ期（その2）地区公有水面埋立事業の環境アセス審査書告示  
 17—旭区若葉台ニュータウンに「ショッピング・タウンわかば」オープン  
 18—市会定例会開会（〜30）  
 19—帷子川分水路計画について、県と西区軽井沢自治会、建築協定書にサイン  
 20—市、写真パネル展「五重苦をのり越えて」横浜は生きている」相鉄ジョイナスで開催（〜26）。▽本牧の米軍横浜海浜住宅跡地の地主への引き渡し。新本牧

自治体・国・社会

1—大阪曾根崎署の現職警官、とばく遊技機の収賄で逮捕。▽国鉄職員の時町村議会議員との兼職禁止措置スタート。6—県立婦人総合センター、江の島にオープン。8—国土庁、1/4以内半期間の地価動向調査発表。総平均二・三%上昇。9—国民生活白書「安定成長下の家計と変化する地域の生活」発行。10—ブレジネフ・ソ連共産党書記長兼最高会議幹部会議長死去（75）  
 11—地方の時代シンポジウム「地方自治体の国際交流」、横浜国際会議場で開幕（〜12）。県など主催。▽警察大学校長・前大阪府警本部長杉原正氏自殺（51）。15—上越新幹線開業。▽日本受精着床学会設立。16—五十七年版消防白書によると、五十六年中的火災六万七千八百八件で一・五%増。原因一位、たばこ。17—全国市議会議長会調査によると、六五・一市の内二三・一市が選挙ポスター掲示場設置条例制定。19—第九回アジア大会インド・ニューデリーで開催（〜14）。三三カ国参加。22—「緑の地球防衛基金」創設。24—自民政総裁予備選開票。一位、中曽根康弘氏。27—中曽根内閣

昭和57年  
1982

12月

横浜市関係

地区開発促進協議会は立ち合い拒否。▽「国際性豊かな横浜を創る懇談会」初会合  
 24—第八回六都府市首脳会議、江の島で開催。首都機能、廃棄物等について  
 26—横浜駅西口駅ビル「シアル」新装開店  
 28—第二回横浜マラソン。二、九四二人  
 29—市会本会議、補正予算案など可決。「人事院勧告の実施に関する意見書提出」可決。▽「釜利谷訴訟」で横浜地裁、原告の適格性否定  
 1—市、「82よこはま国際くらしの会議」を保土ヶ谷公会堂で開催。▽市、初の難病相談を旭保健所で実施  
 2—みなど経済振興懇談会研究第三グループ、「横浜の卸売機能の強化について」提言。▽市、「横浜国際ピアノコンサート」を県立音楽堂で開催（〜3）  
 3—横浜人形の愛称、「ヨココ」に決定  
 ▽市第一回「障害者の日」行事（〜5）  
 4—市長、日本丸誘致を運輸相らに陳情  
 9—市情報公開問題研究会初会合。座長に三浦恵司市大教授。▽市長と上海市長共同声明発表、開港広場に上海市の市章のレリーフ板設置  
 14—南区在住で全国第三位の長寿者、田中松太郎氏死去。一〇八歳  
 16—市営地下鉄開業一〇周年

自治体・国・社会

発足、▽「相模川を愛する会」旗揚げ。相模原市内の自然保護団体など六八団体で結成。29—大井町長に瀬戸洋二氏無投票再選。▽国連大学、県主催による国連大学セミナー「新国際秩序の形成」横浜国際会議場で開幕（〜14）。▽文部省の高卒予定者の就職内定率調査によると、十月末現在六六・八%で、前年比二・二%減  
 1—国鉄無料バス、国会議員・国鉄職員職務用を除き全廃。▽県総合産業政策委員会、「かながわの総合産業政策」を知事に答申。2—米ユタ州で、完全置換型人工心臓埋め込み手術成功  
 3—国連総会、「障害者の一〇年」宣言。6—「サラリーマン税金訴訟」で東京高裁、源泉徴収合憲判決。▽「テレビゲーム機訴訟」で東京地裁、ソフトウエアに著作権認められる判決。7—厚生省、日本ケミファを新薬不正事件で製造・輸入八〇日間停止処分。8—県メリーランド州友好委員会設立総会。9—県総合福祉政策委員会、障害福祉長期行動計画基本構想を知事に提出。13—国税庁、「法人企業

1月

- 18 | 中区の開港資料館横に「開港広場」オープン、市内初の広場公園
- 20 | 市、市政モニターが選んだ「ことしの市内一〇大ニュース」発表。一位、本牧の横浜海浜住宅地区など米軍三施設返還。▽鶴見・港北区住民代表、鶴見川改修費の確保を建設・大蔵相らに陳情。▽環境庁、五十六年度大気汚染調査発表。
- 21 | 西区平沼小、全国ワースト一位に
- 21 | 生麦地区センターオープン
- 22 | 市会臨時会開会（〜25）
- 24 | 磯子駅近くの高層アパート屋上から岡村中学の女子中学生三人が飛び降り自殺。▽市と川崎市、工業等制限法緩和を求める要望書を国土庁長官に提出。▽「山下公園眺望権訴訟」和解成立で、元原告がバラ花壇用にと市に三〇〇万円寄付
- 25 | 市会、市職員・特別職退職金削減のための条例改正案など可決し閉幕。退職金は、上限七四・八カ月に引き下げ
- 27 | 市以付人事異動発表。二二三人
- 5 | 神奈川区生活環境図集、販売開始
- 6 | 市長、年頭記者会見
- 7 | 市、長期企業研修に主査三人発令。神奈川臨海鉄道、そごう、相模鉄道の三社にゆから。▽市長ら、首相に「日本丸」の横浜移管要請。▽ナホトカ航路一九年のソ連客船「バイカル号」、大棧橋に最後の入港（〜8）

実態調査」発表。交際費三兆三〇六一億円で前年比六・一％増  
 △会計検査院、五十六年度決算検査報告。不適正経理二二一件一、七二二億円。14 | 全日本民間労働組合協議会（全民労協）結成総会。四一単産、四二五万人参加。18 | 厚生省、五十六年度医療施設調査・病院報告。人口一〇万人当たり医療施設数一位高知県一八・三。20 | 政府、五年ぶりに消費者米価据え置き決定。▽農水省、五十六年度食料需給表発表。年間一人当たり米消費量七七・八kgで前年比一・一kg減。23 | 税制調査会、六年連続の所得減税見送りなど答申  
 29 | 労働省、五十七年労働組合基本調査発表。組織率三〇・五％。前年比〇・三％減。30 | 五十八年度予算政府案決定。五〇兆三、七九六億円。前年比一・四％増。国債依存度二六・五％

1 | はとバス、都内初の二階建バス運行。4 | 三カ日の全国初もつて八、一六〇万人。7 | 厚生省、五十七年行政基礎調査発表。世帯総数三、六二四万八千世帯。前年比〇・四％増。一世帯平均三・二五人。前年比〇・〇一人増。8 | ニチイ小田原出店をめぐり、小田原市議、取賄

- 13 | 市会、傍聴規則一部改正。年齢制限を「児童及び乳幼児」に緩和
- 14 | 横浜海洋科学博物館将来構想策定委員会、報告書を市長に提出。市制百周年を目標に「総合文化センター」構想。▽市内一〇番目の特別養護老人ホーム「港北みどり園」が港北区新吉田町に開所
- 17 | 市の「在宅老人の健康実態調査」中間報告によると、六五歳以上の四・八五％が痴呆性老人
- 18 | 高速湾岸線環境アセス準備書の地元説明会始まる（〜26）
- 21 | 東京国税局、税務署別最高路線価発表。市内一位は、横浜駅西口横浜高島屋前バスターミナル通り。一九一万円/m<sup>2</sup>
- 22 | 鶴ヶ峰駅周辺開発協議会結成
- 24 | 市老人保健推進連絡協議会発足
- 25 | 婦人問題海外セミナー報告の「よこはま婦人問題国際シンポジウム」、市健康福祉総合センターで開催。▽福祉モニター第八期メンバー、「地域福祉確立に向けての福祉行政」を市長に提言
- 26 | 市自転車等駐車対策会議、駐車（輪）規制、駐車場整備などの条例化打ち出す
- 27 | 第八回三首長懇談会、川崎で開催。工業制限諸制度の見直し要望書を、通産相・国土庁長官に提出
- 28 | 市内六カ所目の地域活動ホーム「ふれあいの家」、鶴見区生麦地区センター前にオープン。地域交流室も併設

で逮捕。9 | 中川一郎前科学技術庁長官自殺（57）。10 | 五十七年新車販売台数三九二万六、七二二台。前年比〇・八％増。軽自動車一三三万四、七二四台で八・五％増。13 | 熊本県知事選挙立候補阻止事件。▽通産省五十七年輸出確認統計発表。一三四億五、九八九万\$。前年比九・四％減。15 | ニチイ出店汚職で、藤沢市議、取賄で逮捕。  
 17 | 自治省、五十六年度地方自治体汚職事件調査発表。一三二自治体、一六二件、二八四人。  
 21 | 国税庁、県庁所在地の最高路線価発表。平均引き上げ率は一・九％。前年比三・六％減。  
 △文部省、国・公・私立学校給食実施状況発表。小学校九八％中学校八六・一％。24 | ソ連原子炉衛星、インド洋中央海域に落下。▽秦野市と東海大学、協力関係を確立する「提携申し合わせ書」調印。26 | ロッキード事件論告求刑公判、田中元総理に受託取賄罪・外為法違反で懲役五年、追徴金五億円。27 | 青函トンネル先導抗貫通。一八年八カ月ぶり。▽米国の'82年対日赤字一八九億六、五〇〇万\$と史上最高。▽五十七年国際収支は経常収支で六八億九、六〇〇万\$の黒字

資料は「広報よこはま」によったほか、主として神奈川新聞を参考にした。\* 印は日付不確定のため新聞発行日。